

## 7. 袋掛け

ももの表面を強風や強い日差し、病虫害からの保護するため袋掛けを行います。袋掛けは、6月中旬頃を目安とし、遅くとも6月下旬までに終了しましょう。高い所から低い所、奥の方から手元の方へ順序良く行い、一度掛けた袋には触れないようにしましょう。

ガク片（花かす）が実に着くと、灰星病や灰色かび病の発生源となるので、ガク片を落として袋掛けを行いましょう。

### (1) もも袋掛け

一重袋は、葉や枝とのこすれによる傷つきや害虫・鳥などの被害から守るほか、病原菌などの侵入を防ぐため、撥水紙の袋を使用します。

二重袋は、一重袋の機能に加え、除袋作業時間の短縮や着色の向上などのメリットがあります。

品種や玉肥大に応じた大きさの袋を使用してください。



▲一重袋



▲二重袋

### (2) 袋かけの方法



1. あらかじめ袋をふくらませておき、果実を袋内中央に入れ、V抜き部に枝を入れる。



2. 止金のついている方を手前にして重ねる。



3. 後ろになっている方（止金のない方）を、止金を包むようにして前へ折る。



4. 止金を向こう側へ折る。